

引用文献・資料等

第1章

- (1) (社)土木学会 原子力土木委員会 (1996): 原子力発電所の立地多様化技術、第4編 人工島式海上立地技術

第2章

- (1) (社)土木学会 原子力土木委員会 (1996): 原子力発電所の立地多様化技術、第4編 人工島式海上立地技術
- (2) 阿部信太郎 (1997): 浅海域における反射法地震探査記録の地質構造解釈とデータ処理法の検討、電力中央研究所報告
- (3) 加藤進・秋葉文雄・守屋成博 (1996): 相馬沖海域における上部白亜系・新生界の層序と地質構造、地質学雑誌、第102巻、第12号、p1039-1051
- (4) (社)土木学会 原子力土木委員会 (1999): 原子力発電所の立地多様化技術(追補版) 人工島式海上立地技術の高度化。
- (5) 阿部信太郎 (2000): 日本海沿岸・褶曲帯における反射法地震探査、日本地震学会2000年秋季大会講演予稿集
- (6) 谷和夫・西好一・吉田保夫・岡本敏郎 (1995): 岩盤用セルフ・ボーリング型プレッシャーメータの開発、電中研研究報告、U95012
- (7) 池見元宣・谷和夫・岡田哲実・田中幸久 (1998): 直径35?500mmの軟岩供試体を用いた三軸圧縮試験、第10回岩の力学国内シンポジウム講演論文集
- (8) (社)土木学会 原子力土木委員会 (1999): 原子力発電所の立地多様化技術(追補版) 人工島式海上立地技術の高度化、pp. 70-84
- (9) 谷和夫 (1998): 人工の泥質軟岩を用いた室内岩盤せん断試験、第10回岩の力学国内シンポジウム、pp. 767-772
- (10) 岡田哲実・谷和夫・田中幸久・百瀬和夫 (1999): 堆積軟岩上の平板載荷試験におけるポアソン比の検討、第29回岩盤力学に関するシンポジウム講演論文集、pp. 216-220

第3章

- (1) (社)日本港湾協会 (1999): 港湾の施設の技術上の基準・同解説(上・下)
- (2) (社)土木学会 原子力土木委員会 (1996): 原子力発電所の立地多様化技術、第4編人工島式海上立地技術、396p
- (3) (社)土木学会 原子力土木委員会 (1999): 原子力発電所の立地多様化技術(追補版) 人工島式海上立地技術の高度化、437p
- (4) 鹿島遼一・榊山勉 (1999): 人工島式原子力発電所の防波護岸の耐波設計法、電力土木、No.284、pp. 65-69
- (5) 山口正隆・畑田佳男・宇都宮好博 (1987): 一地点を対象とした浅海波浪推算モデルとその適用性、土木学会論文集、第381号/ -7、pp. 151~160

- (6) 山口正隆・畑田佳男・中村雄二・大木泰憲 (1994): わが国太平洋岸における超長期の台風発生波高の極値の推定、海岸工学論文集、第41巻、pp206~210
- (7) 山口正隆・大木泰憲・畑田佳男・前川浩章 (1996): 確率的低気圧モデルに関する研究、海岸工学論文集、第43巻、pp. 246-250
- (8) Van der Meer, J. W. (1987): Stability of breakwater armour layers design formulae, Coastal Engineering, Vol. 11, pp. 219-239
- (9) 鹿島遼一・榊山勉・清水琢三・関本恒浩・京谷修 (1993): 安定限界を越える不規則波に対する人工島防波護岸の耐波安定性と越波特性、海岸工学論文集、第40巻、pp. 686-690
- (10) 鹿島遼一・榊山勉・清水琢三・関本恒浩・京谷修 (1994): 消波工の変形量の時間変化の予測と変形に及ぼすコアの影響、海岸工学論文集、第41巻、pp. 771-775
- (11) 榊山勉・今井澄雄 (1996): 消波護岸の越波に関する数値シミュレーション、海岸工学論文集、第43巻、pp.696-700
- (12) 榊山勉 (1998): 消波護岸の越波に関する数値計算モデルの開発と検証、電力中央研究所報告、研究報告: U97103、27p
- (13) Nichols, B.D., Hirt,C.W., Hotchkiss,R.S. (1980): SOLA-VOF -A solutionalgorithm for transient fluid with multiple free boundaries, Report LA-8355, Los Alamos Scientific Laboratory, University of California
- (14) 合田良実・岸良安治・神山豊 (1975): 不規則波による防波護岸の越波流量に関する実験的研究、港湾技術研究所報告、第14巻、第4号、pp. 3-44
- (15) 高山知司・永井紀彦・西田一彦 (1982): 各種消波工による越波流量の減少効果、港湾技術研究所報告、第21巻、第2号、pp. 151-205
- (16) 福田伸男・宇野俊泰・入江功 (1973): 防波護岸の越波に関する現地観測(第2報)、第20回海岸工学講演会論文集、pp. 113-118
- (17) 榊山勉・鹿島遼一 (1997): 消波護岸の越波に関する現地観測と水理実験との比較、海岸工学論文集、第44巻、pp. 736-741
- (18) 河井正・金谷守・栃木均 (1999): 人工島防波護岸の耐震性に関する研究(その2) - 遠心力載荷装置を用いた防波護岸の模型振動実験 -、電中研研究報告U98023
- (19) 金谷守・栃木均・河井正 (1999): 人工島防波護岸の耐震性に関する研究(その4) - DEM-FEMカップリング解析手法(SEAWALL-2D)による防波護岸の地震時変形解析 -、電中研研究報告U98025
- (20) 栃木均・金谷守・河井正 (1999): 人工島防波護岸の耐震性に関する研究(その3) - 消波ブロックとの動的相互作用を考慮したケーソン式護岸の耐震性評価手法の開発 -、電中研研究報告U98024
- (21) 金谷守・西好一・当麻純一・大波正行 (1994): 有効応力

に基づく地盤の非線形解析手法の開発とその検証、土木学会論文集、No. 505、 -29、 49-58

- (22) 金谷守・栃木均・河井正・榊山勉・工藤康二 (1999): 人工島防波護岸の耐震性に関する研究 (その5) - 実規模防波護岸の地震時変形と機能維持検討 -、電中研研究報告 U99011
- (23) 合田良実・岸良安治・神山豊 (1975): 不規則波による防波護岸の越波流量に関する実験的研究、港湾技術研究所報告、第14巻、第4号、pp. 3-44
- (24) 高山知司・永井紀彦・西田一彦 (1982): 各種消波工による越波流量の減少効果、港湾技術研究所報告、第21巻、第2号、pp. 151-205

第4章

- (1) 堀川清司編 (1985): 海岸環境工学 海岸過程の理論・観測・予測方法、東京大学出版会、582p
- (2) 渡辺晃・丸山康樹・清水隆夫・榊山勉 (1984): 構造物設置に伴う三次元海浜変形の数値予測モデル、第31回海岸工学講演会論文集、pp.406-410
- (3) 丸山康樹 (1987): 海底地形変化予測モデルの現地適用性、電力中央研究所報告、研究報告 U87012
- (4) 清水琢三 (1996): 海浜変形シミュレ - ション、水工学シリ - ズ96-B-5、土木学会、pp.1-26
- (5) 社土木学会 原子力土木委員会 (1996): 原子力発電所の立地多様化技術、第4編人工島式海上立地技術、pp.163-191
- (6) 社土木学会 原子力土木委員会 (1999): 原子力発電所の立地多様化技術 (追補版) 人工島式海上立地技術の高度化、pp.284-379
- (7) 池野正明・清水隆夫 (1998a): 波の多方向不規則性と浮遊漂砂を考慮した3次元海浜変形数値予測モデルの開発と人工島周辺海域への適用、電力中央研究所報告、研究報告 U97091
- (8) 池野正明・清水隆夫・久保道仁・定森良夫 (1998b): 波の多方向不規則性と浮遊漂砂を考慮した3次元海浜変形数値予測モデルの開発と検証、海岸工学論文集、第45巻、pp.531-535
- (9) Madsen, P. A., R. Murraray and O. R. Sorensen (1991): A new form of the Boussinesq equations with improved linear dispersion characteristics, Coastal Eng., Vol. 15, pp. 371-388
- (10) 佐藤慎司・M.B.Kabiling (1994): 波打ち帯を含む三次元海浜変形の数値モデル、海岸工学論文集、第41巻、pp. 401-405
- (11) 岡安章夫・磯部雅彦・渡辺晃 (1989): 砕波帯におけるエネルギー - 収支と戻り流れのモデリング、海岸工学論文集、第36巻、pp. 31-35
- (12) 柴山知也・W. Rattanapitikon (1995): 浮遊漂砂量予測を取り入れた二次元海浜変形モデル、海岸工学論文集、第42巻、pp. 446-450
- (13) Ikeno, M. and T. Shimizu (1998): Characteristics of

suspended sediment transport in the surf zone of irregular waves and their reproduction by a cross-shore beach deformation model, Proc. 26th Int. Conf. on Coastal Eng., pp.2317-2330

- (14) 池野正明・清水隆夫 (1997): 不規則波砕波帯内における浮遊砂フラックスの特性とこれを考慮した2次元海浜変形モデルの提案、電力中央研究所報告、研究報告U96037
- (15) 清水隆夫・池野正明・鹿島遼一・今井澄雄 (1996b): swash zoneにおける波毎の岸沖漂砂量と前浜地形変化について、海工論文集、第43巻、pp. 511-515 .
- (16) Shimizu, T. & M. Ikeno (1998): Experimental study on sand transport and diffusion due to multi-directional random waves, Book of Abstracts, the 26th Int. Conf. on Coastal Eng., pp.154-155
- (17) 榊山勉・清水隆夫・斎藤昭三・鹿島遼一・丸山康樹 (1986): 砂漣の形状特性と消滅限界、電力中央研究所、研究報告、No.385050、36p
- (18) 清水隆夫・斎藤昭三・丸山康樹・長谷川寛・鹿島遼一 (1985): 大型造波水路実験による岸沖漂砂量分布のモデル化、電力中央研究所、研究報告、No.384028、60p

第5章

- (1) 社土木学会 原子力土木委員会 (1999): 原子力発電所の立地多様化技術 (追補版) 人工島式海上立地技術の高度化
- (2) 菊地省吾 (1978): 海中造林とその理論、増殖技術の基礎と理論、水産学シリーズ23、恒星社厚生閣
- (3) 沢田満・三木文興・足助光久 (1981): コンブ藻場・藻場・海中林、恒星社厚生閣
- (4) 四井敏夫・前迫信彦 (1993): 対馬東岸の磯焼け地帯における藻場回復実験、水産増殖、41、67-70
- (5) 川崎保夫・寺脇利信・長谷川寛・平口博丸・後藤弘・荒木洋・飯塚貞二 (1991): 海中林造成技術の実証、第3報三浦半島西部でのアラメおよびカジメの生態と生育特性、電力中央研究所研究報告U91022
- (6) 社土木学会 原子力土木委員会 (1996): 原子力発電所の立地多様化技術、付属編 2 立地支援技術
- (7) 電力中央研究所 (1994): 海中林、新しい海域環境の創造、(パンフレット)
- (8) 寺脇利信・川崎保夫・本多正樹・山田貞夫・丸山康樹・五十嵐由雄 (1991): 海中林造成技術の実証 第2報 三浦半島西部でのアラメおよびカジメの生態と生育特性、電力中央研究所研究報告U91022
- (9) 本多正樹 (1996): 海中林 (カジメ群落) の生産速度モデルの開発 - 光・温度因子と生産速度の関係 -、電中研研究報告U95058
- (10) Hayakawa Y. and J. Kittaka (1984): Simulation of Feeding Behavior of Sea Urchin *Strongylocentrotus nudus*. Bull. Japan Soc. Sci. Fish., 50: 2, 233-240